

令和 2 年度 宮崎県立小林こすもす支援学校関係者評価書

4 段階評価

4 十分満足できる 3 ほぼ満足できる 2 やや物足りない 1 改善を要する

【 総 評 】

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果コメント	自己評価	関係者評価	学校関係者評価コメント
教育活動	1 児童生徒の実態に即した教育課程の編成と教育計画	いずれも現状維持、微増減となった。項目5の「本校の教育方針や教育活動について保護者に分かりやすく伝えているか」に関しては、昨年の2.7から2.8と伸びた。教育方針については、本校化に当たり新しいものを作成したので、新たな方針に基づき教育活動を展開しており、このことを保護者や地域の皆様へ周知するために、本年度は校長による学校通信や適度なホームページの更新などの取組を積極的に行ってきたことによるものと考え。開かれた学校を目指し、今後も学校の様子を適切な機会をとらえて伝えられるように努めていく。	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 本校化となり、新たな取組等を工夫し企画されている。感染症拡大防止の観点から行事等が縮小されたことは残念であった。引き続き本校の特色を生かした学校運営や地域におけるセンター的機能やその役割を十分に発揮してほしい。 P T A 組織を見直し、広報部を新設するなど、P R 活動に重点的に取り組んだことが「開かれた教育課程」につながっている。また、校歌を濱田詩朗氏に依頼し、T V ・ラジオでP R できたことも効果的だった。 「開かれた教育課程」に向けては、想定される機会を明確にすることで今後の貴校の発展につながる。
	2 分掌部や学部間の連携、円滑な校務運営				
	3 生きる力を育くむための教材				
	4 教具の開発や学習環境の整備				
	5 集団生活への参加、友達と協力する態度や能力の育成				
	6 保護者への教育方針や教育活動の伝達				
	7 好ましい行動の仕方を身につけさせる適切な指導				
	8 児童生徒や保護者・地域社会のニーズに応える教育				
連携・支援	9 児童生徒理解に立った指導	いずれの項目も昨年に比べ、現状維持が増となった。唯一0.1減となった項目11の「学校間交流」については、感染症拡大防止の観点から、直接交流や居住地校交流が制限された結果と思われる。特に、3.0と高い評価となった項目10については、今後も子供の障がいの実態や発達の段階を的確に捉え、指導に活かしていく必要があるととらえますとともに、更なる働き方改革を行い、子供と向き合う時間を一層確保することが大切とも考える。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 感染症拡大防止の状況の中で、共生社会の理念の下、発想を転換させ、交流校との間接交流に取り組むなど、積極的にチャレンジされていた。 関係機関との連携においては、本年度良好な関係が築けていた。子供たちの環境を維持し、今後も一貫した支援ができるとよい。
	10 個別の指導計画、個別の支援計画、移行支援計画を作成し、保護者や関係機関との連携、長期間の見通しをもった支援				
	11 学級通信、連絡帳、懇談などによる保護者への連絡				
	12 共生社会を目指した学校・地域づくりの推進				
	13 障がいや個性に応じた進路・就業支援				
研修	14 地域センターとしての相談・連携・支援機能の充実	自己評価はどちらも2.6と現状維持が増となった。特に本年度は、新学習指導要領についての理論研究やそれに合わせた年間指導計画の見直しに加え、授業研究を行ったことが充実した内容に起因したと思われる。3年間の研修計画で進めており、令和3年度は研究のまとめを行う予定である。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 感染症の影響で会議や研修の在り方は大きく変化した。I C T の活用を更に充実させることにより、時間の省略化につながることを期待できる。 時代の流れでオンライン研修等が増えてきているので、ネット環境の整備も求められる。 教育基本法9条の「教員は…〈中略〉…絶えず研究と修養に励み…」を忘れずに児童生徒のために取り組んでほしい。
	15 研究や研修を通じての専門的指導力の向上				
研修	16 職員の仕事に合わせた研修、教育間の相互支援				
	17 児童生徒の学習成果の向上				

生活・安全	16 児童生徒の健康な心身、基本的生活習慣の確立 17 交通マナー、社会規範意識等の安全指導の徹底 18 安全面に留意した準備や対応 19 緊急時対策の整備と対応の充実	自己評価の平均は3.0となった。中でも項目17は2.7から2.9となった。危機管理に関しては、今年度は、防災メールだけでなく、電話も活用し、災害時の児童生徒保護者引き渡し訓練を実施した。また、医療的ケア対象の児童生徒における緊急時対応シミュレーションも実施しており、今後も更に課題解決に向けて取り組んでいきたい。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・併設校との危機管理上の連携の難しさがあるが、よく連携を図っていると感じる。他校とは異なった取組が素晴らしい。 ・新しい生活様式が求められる中、更なる防災意識の向上をお願いしたい。 ・地震や津波など、今後も様々な場面や現実的な状況を想定して訓練を行い、子供や職員の安全管理体制に努めてほしい。
その他	20 諸会議、校内研修、課題研の効果的実施 21 児童生徒や職員の人権保護 22 会議の精選、時間短縮、事務処理の軽減化 23 児童生徒は登校を楽しみにしているか 24 PTA活動の活性化、保護者の積極的参加 25 施設・設備等、快適で安全な教育環境 26 個人情報管理、必要な情報の提供	自己評価の平均は2.6から2.7となった。特に項目23については、全項目中最も高い3.2となった。職員の評価にもあるように、感染症拡大防止による臨時休校で授業日数が縮減される中、子供たちが学校再開を楽しみにしているとの声を聞き、学校教育活動の充実を感じ、励みになった。また、昨年同様、項目25に関しては、1.7と全項目を通じて最も低い評価となったが、昨年度とくらべると、0.3ポイント増となった。職員からの反省にもあるように、知肢併置の特別支援学校であるにもかかわらず、バリアフリー化や保護者送迎のスペース、教室不足など、施設設備面での課題は山積しており、今後も関係機関と連携しながら改善を進めるなど、よりよい教育環境の整備充実に努めていきたい。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境面の安全は学校単独で行える範囲は取り組まれており、長期的なスパンで国や県に現状を伝え、より快適で安全な教育環境を目指してほしい。 ・8月から雇用されたスクールサポートスタッフの取組は、障がい者雇用の拡大及び卒業生が仕事をしている状況を在校生が直接見るという相乗効果を生み出しており、非常によい取組だと感じた。 ・職員の働きやすい環境は生徒の指導にもより良い効果をもたらす。ミライムの導入など、職員の働きやすさのバックアップ体制が素晴らしい。 ・「学校に行くのが楽しみ」という保護者の評価が高く、学校の子供に対する思いやりを感じる。また、それを推進している職員の取組は評価できる。

<p>1 本年度の取組について…「校訓」に関する事項 <なかよく>「互いに助け合う豊かな心の育成」 ・感染症拡大防止に努めながら、東方小学校・中学校、小林高等学校との間接的な交流や居住地校交流を通じて、相手を思いやる豊かな心の育成につながった。 ・コンプライアンス研修等に積極的に取り組み、服務規律の遵守と危機管理体制の充実を図った。</p> <p><たくましく>「自立に向け主体的に生きる力の育成」 ・感染症拡大防止に努めながら、スポーツや文化活動、芸術活動に取り組み、県大会や九州大会で優秀な成績を納める生徒がいた。</p> <p><夢にはばたく>「キャリア教育の充実と、家庭や地域と連携し、地域に開かれた学校の実現」 ・キャリア教育の視点から、中学部の進路体験学習、高等部の産業現場等における実習を通して、卒業後を見据えた指導や支援に努めた。また、今年度はキャリア支援部にコーディネーター等を加え、教育相談及び進路相談等を充実することができた。</p> <p>2 次年度へ向けて ○本校の特色を活かした教育を更に充実させ、保護者や地域に本校のよさを発信していく。 ○本校の課題であるバリアフリー化や教室不足等施設設備面での改題解決すべく、環境整備に努める。 ○東方小・中学校、小林高等学校との交流及び共同学習や居住地校交流の活動内容を見直し、学習内容の充実を図る。 ○災害時緊急時対応訓練及び児童生徒保護者引き渡し訓練をより実際に即して実施することにより、危機管理体制の強化を図る。</p>
